

科技高 いきもの記

Vol.26 2021.5.12

佐藤龍平

変態によって劇的に姿を変える カエルの陸上進出

5月6日、猿江公園の池の周りを歩いていると、足を小さな小さなカエルが跳んだ。おお！ついに陸上進出したか！中にはまだしっぽが生えたままのものもある。まさに陸に上がったばかりのようだ。この瞬間を見ることができるのは今の時期だけだ。

カエルは水中から陸上へ生活の場を変えるために、体制（ボディプラン）を大胆に変更して**変態（メタモルフォーゼ）**する。そのさまは実に神秘的で美しい。

よく観察してみると、この子ガエルたちにはアズマヒキガエルとニホンアカガエルの2種類いることが分かった。冬の繁殖期から観察している兩種（いきもの記Vol.20,21参照）の卵が無事に成長しているのだ。

ヒキガエルの子ガエルは体長8mmほどでとても小さい。一方で子アカガエルは15mmほどだ。成体になるとヒキガエルの方がはるかに大きいのに、子ガエルの時は逆というのが面白い。**ヒキガエルはここから十数cmの大きさまで成長する**というのだから驚きだ。今後も成長を見守っていこうと思う。

アズマヒキガエル成体
(2月15日)



ニホンアカガエル成体
(2月22日)



↑冬に産卵のために現れた成体



陸上進出したアズマヒキガエルの子ガエル (5月6日)



陸上進出したニホンアカガエルの子ガエル (5月6日)



アズマヒキガエル

四肢の発達 肢が生えてくると一気にカエルっぽい見た目になる。肺が発達し、水中から出始める。この後、しっぽは消失する。



ニホンアカガエル



オタマジャクシ
黒い方がアズマヒキガエルで黄色くて大きい方がニホンアカガエル。



尾芽胚後期 (3月1日)
孵化後は前端部にある吸盤で水草などにくっつく。



ニホンアカガエルの卵塊 (2月24日)
球状にまとまっている。



アズマヒキガエル

前肢のでき始め
左腕が膜を突き破ろうとしているのが分かる。



ニホンアカガエル

四肢の形成
後肢が生えているのが分かる。前肢よりも先に後肢ができる。

外鰓期 (3月2日)
鰓（えら）が飛び出した状態。尾も伸びてきた。



孵化 (2月24日)
約3mmの尾芽胚が寒天質から飛び出す。



アズマヒキガエルの卵塊 (2月22日)
ひも状にまとまっている。